

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770103327
法人名	医療法人社団 まえだ整形外科外科医院
事業所名	グループホームすずらん
所在地	香川県高松市伏石町1494番地1 (電話)087-868-8828

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年2月8日	評価決定日	平成20年3月31日

## 【情報提供票より】(1月14日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 平成16年9月1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	16人 常勤 12人, 非常勤 1人, 常勤換算 15.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 5階建ての2階～3階
------	--------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	21,000円+実費	
敷金	有( )円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	315円	昼食	420円
	夕食	630円	おやつ	0円
	または1日当たり1,365円			

### (4) 利用者の概要(1月14日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	1名	要介護2	11名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.7歳	最低	72歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	香川県済生会病院、石丸歯科医院、広瀬病院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

琴電三条駅からも近く、伏石街道沿いに面し車の往来も激しく、高齢者施設としては、非常に刺激的な立地条件であるが、職員は外出支援を積極的に行い、家族や外出先、かかりつけ医との連携もしっかり取られ、車によるリスクもよく認識され、対応されており、利用者が安心して外出できる環境を整えている。また、ホーム内外の研修派遣等も充実し、サービスの向上に努め、取り組んでおり、今後が期待されるホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価をサービス向上につなげ、職員全体で活動方法への取り組みに努め、評価を理解しようと前向きに努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	取り組みの不十分な点をさらに検討し、運営者、管理者、職員一体となって改善に取り組む努力をしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営報告、事業の目的、利用者状況、行事实施状況等を話し合われているが、内容がサービスに反映していないようであるので、今後の取り組みに期待したい。また、運営推進会議以外でも市町との連携が望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、担当職員が利用者家族に生活状況等を報告している。また、すずらん便りの発行や意見箱を設置するなどの対応をしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	イベント時は、家族、地域住民に参加交流を呼びかけている。また、ボランティアの受け入れ、家族参加による土日のごみ掃除等を月2回行っているが、参加不足の状況であるので、更なる取り組みに期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の理念、すずらん理念がそのまま理念として掲げられているので、地域密着型サービスとしての理念が望まれる。	○	全く作りかえることではなく、従来の理念のうえに、サブ理念として職員が考えた地域密着型サービスとしての理念を掲げる等、今後の取り組みに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時に唱和され、職員間で共有されている。運営理念は随所に掲載されているが、小さく目につきにくいので、検討して欲しい。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所のイベント時は、家族、地域住民に呼びかけ交流しているが、地域行事、活動に参加できていない。	○	保育園交流を検討している。また、月2回の土日のごみ掃除は参加不足のため、日時変更を検討しており、今後の取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義の理解がなされ、活用して、サービス向上に反映するよう努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者や行事の実施状況等が話しあわれているが、会議内容がサービスに反映されていない。	○	運営推進会議が、形式的に終わるのではなく、地域と密着して行われ、利用者も参加者の一員として意見を述べられることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議以外でも、市町へ相談、指導を仰げる関係づくりをしている。今後も前向きに努力して欲しい。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回、すずらん便りを発行し、事業所の近況報告をしている。また、小遣いの使用明細も、郵送で報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置したり、外部の意見、苦情処理等を月1回郵送で報告している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は比較的少なく、基本的に安定しており、馴染みの関係作りに努力している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回、ホーム全体やユニットごとの勉強会を行い、サービス向上に努めている。また、外部研修を受ける機会の拡大を図っている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>職員が同業者と交流する機会はないが、管理者が近くの事業所へ出向き、交流している。                      今後は、グループホーム協議会への加盟と交流を深めていく予定である。</p>	○	<p>他の事業所との交流を深めていき、情報収集、分析を行い、地域密着型サービスにつなげて欲しい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学はもちろん、受付の段階で入居希望者の自宅等へ出向き、話し合い、納得のうえ、安心して入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩とした視点で、共に学びあい、支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者を主体に、一人ひとりの思い、意向を優先し、表出困難な場合は、家族の意向、意見等も重視するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	三団体方式ツールでアセスメントを行い、生活7領域(包括的自立支援プログラム)から利用者の生活課題を捉え、ケアのあり方を考え、利用者本位の介護計画が作成されている。また、本人、家族の要望も盛り込まれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月中に実状に即さない場合は、介護計画の変更を行っている。また、変化が起これば、その都度、本人、家族、医療関係者、介護者の話し合いのもと、介護計画を変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在は行われていないが、デイサービスなどを実施することで、地域住民の出入りが盛んになり、地域交流につながると考えられる。	○	地域密着型サービスとして、利用者及び地域住民の状況に即時対応できるよう、柔軟性をもった事業所を目指した取り組みに期待したい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診、通院は、家族との協力体制で行っている。基本的には家族同行で、困難な時は、定期往診もされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応指針を作成し、事業所での対応可能なケアの説明をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特に排泄介助において、利用者の羞恥心、プライバシーには気を配っている。また、入浴時も同様に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主導ではなく、利用者主体に自己決定することを念頭におき、希望する支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から片付けまで利用者とともにいき、食事は職員もテーブルを囲み、楽しい雰囲気の中で食事をしている。また、楽しい雰囲気作りが自然に支援されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜、19時以降は入浴できないが、昼間は自由入浴で利用者の希望する日、時間に入浴できている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意分野を把握し、それぞれに仕事の役割を決め、メリ張りのある生活を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回は買い物に出かけている。また、日常は散歩等で外出支援をしている。長時間外出する時は、緊急対応マニュアルを持って出かける等、万全の体制で支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入りにセンサーを設置している。また、職員による付き添いを励行し、安全に外出している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災、防災マニュアルのほか、地震、水害マニュアルも作成している。今後は、地域密着という点で検討して欲しい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事摂取量のチェックや栄養バランスの確認、記録等をし、月1回利用者の好む献立を提供するなど、給食委員会で話し合いをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールはカーテンで仕切りをしているため、キッチンの匂いで食欲がそそられる。また、共通空間にソファを用意し、ゆったりくつろげる空間作りをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の生活スタイルに合わせ、馴染みの物を置き、居心地よく過ごせるよう取り組みに力を入れている。スペースがあれば、畳を敷いている利用者もいる。		